

2015 11/24

No.2007

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



恒例の「大山紅葉ライトアップ」の試験点灯が13日、伊勢原市の大山寺と大山阿夫利神社下社で行われた。点灯期間は14日から12月6日までの金、土、日曜日、祝日。日没から午後8時まで(金曜日は午後7時)、大山ケーブルカーの運行も期間中は午後8時(平日は午後7時)まで延長される。



政経かながわ

2015 11/24 No.2007

contents

視点・点描	3
地方紙の果たす役割実感	
政治	4
政権選択肢なき国民の不幸 民意反映に欠かせない競争原理	
国際	6
韓国の対日強硬姿勢に変化 安倍政権「親米」徹底で効果	
経済	8
期待高まる木製新建材CLT 林業再生のラストチャンス	
くらし2015	10
広がる介護の保険外サービス	
広告珍談	12
広告はたのしい④ おもと？ なんだと！	
NNAアジア経済レポート	13
神奈川景気データファイル	14
神奈川景気データファイル	15

事務局だより

◇神奈川政経懇話会 設立50周年記念特別講演会

2015年11月30日(月)
14時～15時30分
横浜情報文化センター6階「情
文ホール」

講師は女優の岩下志麻さん。
司会は共同通信社編集委員の
立花珠樹さん
演題は「私の女優人生-岩下志
麻が語る演技と出会い」

◇横浜定例講演会 (シンポジウム)・交流会

2015年12月11日(金)
横浜ベイシェラトンホテル&タ
ワーズ

▽講演会

11時～12時30分、4階「浜風」
講師は共同通信社政治部長・
小淵敏郎氏、同経済部長・東
隆行氏、同外信部長・沢井俊
光氏、神奈川新聞社取締役論
説主幹・林義亮氏

演題は「2016年の動向を読む」

▽交流会

12時40分～14時、4階「清流」

◇横浜定例講演会

2016年1月20日(水)
13時30分～15時
崎陽軒本店4階「ダイナスティー」
講師は日本理化学工業会長の
大山泰弘氏

演題は「真の福祉国家を実現
しよう～知的障害者に導かれた
企業経営から～」

視点 点描



地方紙の果たす役割実感

東京湾沿いの横須賀を巡る「第3回Yokosuka海道ウォーク」が10月31日に開かれ、過去最高の約4000人が参加した。海上自衛隊横須賀基地では停泊する全艦船が満艦飾で参加者を迎え、護衛艦を特別公開する「サプライズ」があつて盛り上がった。

同イベントは三浦半島の観光復興をテーマに、横須賀の企業・団体で組織する実行委員会が主催す

る。事務局は神奈川新聞横須賀支社に置かれ、裏方の責任者は支社長が仰せつかつている。1月に横須賀に異動したときから、ウォークの成功を最大の使命としてきたが、記者活動しか知らない身にはなかなかの難業だった。中でも厳しかったのが海自との交渉だ。今回は横須賀製鉄所（造船所）の着工150周年という記念の年。普段は入ることができない海

自基地の通り抜けを目玉にするコースはほぼ決まっていた。だが多くの参加者が予想され、混乱なく基地内に入れる方法を示さなければ正式なOKが出なかった。

過去2回のような当日受付はせず、人数制限を設けて事前登録のみとした。参加者が一挙に押し寄せないように、三つのコースで順次送り込むスタート時間にした。名簿提出が必要なので、受付と名簿作成の代行会社を探し、認めてもらえたのは8月中旬だった。

何度も心が折れそうになったこ



万国旗で飾られた護衛艦「いずも」。海自の「サプライズ演出」で大いに盛り上がった

ともあっただけに、当日のサプライズ演出には涙がこみ上げた。通過するだけのはずだった横須賀基地で、南極観測船「しらせ」など計12隻を色とりどりの旗で飾り、海自最大で全長248メートルの巨艦「いずも」の格納庫甲板内をコースとして開放してくれたのである。事務局メンバーのツイッターには「Yokosuka海道ウォークありがとう。海自の心意気、最高でした」という書き込みもあり、報われる思いがした。

閉会セレモニーで吉田横須賀市長から弊社にお褒めの言葉をいただいた。実行委員会一丸の成果ではあるが、地方紙が担う役割をあらためて実感した。10月から新しい職場に移ったが、地域とつながる経験を生かしていきたい。

（神奈川新聞社整理部長

岡部 伸康）

おもと？ なんだと！

泰平の世がつづく江戸時代、おさむらいは何してたのだろう。ひとりでチャンバラやっても、つまらない。ひとり遊びは何がいいかなやんで、手をつけたのが植物。唐椿や松葉蘭や南天、福寿草や長生草など縁起のいい草花。なかでも、おもとという珍妙な植物をたのしんだという。

《万年青》と書いて、オモトと読む。文字通り、年がら年中、青々している植物である。だから不老長寿のシンボルと、長生き願望のおさむらいたちに愛玩された。何を楽しむのかというと、葉っぱ。園芸の過程で造形された、シマ柄や斑いりなどを珍重し、同好者と競いあった。つまり植物本来のカタチではなく、品種改良を繰り返したカタチで《奇品》という。それ

称がならば、4枚5枚7枚9枚と葉っぱの数しかない。花なんて、まったく無視。広告主は20種ほどのオモトを、昨夜自宅で紛失した。心あたりの人は郵便料はこちら払いで、至急お知らせ下さいと。紛失ではなく、盗まれたのだろう。

1880（明治13）年11月に掲載

万年青紛失廣告

星月龍	五枚葉留葉一枚しらみ付
羅紗甲龍	七枚葉
同龍頭	七枚葉四枚子付
同月星	六枚葉二枚子付
同龍	五枚葉
同面	六枚葉
高砂	二枚葉
三女	七枚葉一枚二枚葉子付
金剛	七枚葉二枚子付
同龍	七枚葉
同富	七枚葉二枚子付
同士	七枚葉一本
砂子	七枚葉一本
外	實生物四十四本

右ノ品々昨九日自宅ニ於テ紛失仕候間右品御見當リノ御方ハ郵便先拂ナク以至急御報知被下度同方ノ御方ニ御報告仕候也
十一月十一日 極道場 樋口伊八

された。また、マニア向けの書物に「万年青の栽培は長生きのもと、生まれる新種が新たな利益を生み出す」とブームになった京都では「すべてが投機的であり、一時に巨利を得る者も少なくない。正業をすてて夢中になり、破産する者もいる。各自が反省し、浮薄な事柄に迷って本業に事欠くことがないように」と役所が忠告。いっきに値

くずれたが、いずれ高価になるとますます買い集めた人もいたとか。ついに禁令が出されたという。さむらいはどうして、おもと好きなのか。じつは徳川家康がおもとマニアで、初めて江戸城に入るとき、万年青とともに入城したとか。家康を祀る久能山東照宮には、社殿や拝殿に、おもとが彫刻されているそう。

（美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住）
（図）万年青紛失廣告。1880（明治13）年11月・大阪朝日新聞掲載